

令和6年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会 及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会会議録	
議 題	審議事項 議事1 座長の決定について 議事2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について 議事3 その他
日 時	令和7年1月29日（水）午前10時00分から午前11時22分まで
開催場所	市庁舎18階 共用会議室 なみき16・17
出席者 （敬称略）	表彰部会委員：室田昌子、片岡公一、加藤功甫、高村典子、田邊寛子 表彰広報部会委員：真田純子（座長）、三輪律江 【議事2】 説明者：大嶽 洋一（都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課担当係長） 新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長） 事務局：古櫛山匡和（都市整備局地域まちづくり部長） 光田 麻乃（都市整備局企画部都市デザイン室長） 立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長） 村瀬 亮二（都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課担当課長）
欠席者 （敬称略）	青木祐介、加藤光雄、鴨下香苗
開催形態	公開（傍聴者：0名）
決定事項	【議事1】座長は、都市美対策審議会表彰広報部会の真田部会長に決定した。 【議事2】賞の選考及び広報の方法、リーフレット・ポスターデザインについて、概ね了承された が、本日出た意見を踏まえて修正を行う。
議 事	1 開 会 （立石課長） ただいまより、令和6年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会を開催いたします。 本日の会議の成立についてです。地域まちづくり推進委員会表彰部会につきましては、5名全員が出席されておりますので成立となっております。都市美対策審議会表彰広報部会は、青木委員が、ご出席予定だったところ、体調不良のため急遽欠席となり、5名中2名のご出席にとどまっており、過半数に満たないため、不成立となります。今後の部会の進め方について、真田部会長のご判断をお願いいたします。 （真田部会長） 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会設置要綱第2条第2項の「緊急の場合等表彰広報部会の会議を開催することが困難であると部会長が認めるときは、各委員に個別に意見を聞くことで、表彰広報部会の会議に代えることができる」に該当するため、各委員に個別に意見聴取することで、表彰広報部会の会議に代えることとします。なお、本会議での三輪委員及び私の発言を個別の意見聴取に代えることとしますが、三輪委員よろしいでしょうか。 （三輪委員） 了承します。 （立石課長） ありがとうございます。では、後日、欠席の委員の方にご意見を伺いまして、部会長に報告します。よろしくお願いいたします。 次に、本日の部会についての会議の公開に関しましては、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき公開といたします。 議事1 座長の決定について （立石課長） 議事1 座長の選出になります。合同部会におきましては、それぞれの部会が交互に持ち回りとしておりまして、今回の座長は都市美対策審議会表彰広報部会の真田部会長にお願いしたいと思っております

が、いかがでしょうか。

(異議なし)

(立石課長)

異議なしというお声を頂きましたので、真田部会長に座長をお願いしたいと思います。
以上で議事(1)が終了となります。以降、真田部会長、議事進行をお願いいたします。

(真田部会長)

皆様、よろしくお願いいたします。では、早速議事を進めていきたいと思います。

議事2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について

資料1から3まで、事務局から説明を行った。

(真田部会長)

では、スケジュールと選考方法について、ご意見・ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。

(田邊委員)

私たちの部会では、現地を見たい、審査員や団体同士の触れ合いがない、最後の表彰式のときに懇親会がしたいといった話題が出ました。その思いを酌み取っていただき、選考のプロセスの中で、1次選考後にプレゼンしていただき、直接お会いして双方で情報交換する場を設けるよう検討いただいています。一点質問ですが、地域まちづくり部門として、やはり現地視察を実施することは難しいですか。

(大嶽係長)

検討を重ねてきましたが、自薦・他薦が両方あり、団体がどんな団体で、その状況によって現地視察の可否も不明であるため今回の実施は難しいと考えています。また、バスツアーの予算化もできておりません。頂いた意見は引き続き検討したいと思います。

(田邊委員)

ありがとうございます。今後もひとまず試しにやってみて、それで委員の皆様がよかったと思われるならそのまま、やはり改善となったらぜひまた議論していただければと思います。

(真田部会長)

ありがとうございます。他にご質問・ご意見ございますか。高村委員、お願いします。

(高村委員)

先日、まち普請のコンテストを市役所のアトリウムで盛大にやっていましたが、横浜・人・まち・デザイン賞については非公開で知らないうちに選ばれています。知らないうちではなく、どこかで市民の方に公開できるような、「こんなものが選ばれていますよ」、「こんな賞がありますよ」ということをもっと知っていただきたいので、それを選考方法のどこかに入れられないかなと思っています。プレゼンを例えば公開にするなど、そういった方法があってもいいのかなと思いました。

(村瀬課長)

広報していくことはすごく大事だと思っていまして、我々も何かしら考えたいと思っています。前回の部会でも、オープンでできないいろいろな議論させてもらったのですが、今の段階では手続上、事務の選考方法を大幅に変えるというのが難しかったので、引き続きの検討課題とさせていただきたいと思っています。

(真田部会長)

ありがとうございます。では、室田委員、お願いします。

(室田部会長)

地域まちづくり部門では、活発に活躍されてきた団体を表彰しており、さらにそういった団体が発展できるような機会としてこの賞を生かしていきたいというのが趣旨だったと思います。1次通過の方々が皆さんで一堂に会して交流ができるというのは私も素晴らしいことだと思います。田邊委員もおっしゃったようなちょっとした懇親の場や、あるいは、表彰された団体の方々が自分たちの活動内容を皆さんに伝えられる場を考えています。さらに、表彰を受けたOBが一堂に会して交流するのも良いと思います。OBは希望する団体だけでも良く、ただ他の団体と情報交換や交流を希望する団体は、お互いに皆さんで交流し合ってより発展できるような機会を、いろいろと折を見つけてご検討いただければ大変うれしく思います。よろしくお願いいたします。

(真田部会長)

事務局、いかがでしょうか。

(村瀬課長)

横浜市には様々な地域活動をされている方、我々の地域まちづくり推進条例に基づいて活動されている方がいらっしゃいます。まさにおっしゃるとおり、こういった方々が交流していくことは非常に大事だと思っていますし、ぜひそういった機会を我々も模索していきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(真田部会長)

他にありますか。

(片岡委員)

質問ですが、プレゼンに選ばれたグループの位置づけ、取扱いみたいなものはどうなるでしょうか。前回の表彰部会の議論の中で、賞をもらえなくても全員が素晴らしいという話があって、せっかくプレゼンに来てもらったという時点で、もう十分評価に値するのではないかという話があったかと思うのですが、誇れるような状態で市から情報発信等がされるのかといった部分が気になりました。

(村瀬課長)

そのところは部会の中でもかなり議論があって、正直まとまり切らなかったなと感じています。先ほど資料では説明しなかったのですが、1次選考団体を7～8団体に絞るという案を検討しています。前は7団体を表彰していたことを考えると、2次選考で落選してしまう団体を限りなく減らす方法も考えられるかと思います。引き続き部会で選考件数等は議論させていただきたいと思っています。いずれにしても来ていただいた方は何かしら表彰できるような方法を考えたいと思いますが、その中で、落選した方がその後どう思われるかといった事情を踏まえながら検討していきたいと思っています。

(真田部会長)

ありがとうございます。加藤委員、お願いします。

(加藤(功)委員)

今の交流会、懇親会のところで、プレゼンするというのが今回新しく入ることで、そのプレゼンの良し悪しで選考が決まってしまうのが気になります。あくまで我々は「こういう人たちが活動をやっているのだな」という、まさに交流が目的で、別にプレゼンに出なかった場合や上手く話せない場合でも、選考には影響しないという告知をするのか、それともまち普請のようにプレゼンが大事だという告知をするのか、どちらのイメージでしょうか。交流会が目的なのにプレゼンの準備を頑張るすぎてしまうということも考えられるので、出し方を統一できればと思います。

(村瀬課長)

プレゼンで選考するというイメージは、前回の表彰部会でもなかったと思います。あくまでも、我々がヒアリング調査をするのは、書類に対しての事実確認ということなので、そういった事実を確認しながら、ぜひ活動している方々の思いを我々も一緒に聞くということを目的でやりたいなと思っています。そこはまた引き続きご検討を一緒にお願いいたします。

(真田部会長)

その他ございますか。

(田邊委員)

今、片岡委員も加藤委員もおっしゃれましたが、みんな素晴らしいので、落ちてしまった団体がすごく心配です。ただ、どうしても私たちは賞を決めなければならないので、本当に苦しみながら何とか選んでいるところがあります。なので、ノミネートされたことが誇れる状況をどうにかつくっていただきたいと思いました。

(真田部会長)

ありがとうございます。

(室田部会長)

私もプレゼンという言葉が気になっています。プレゼンというと、今、加藤委員が言われたように、頑張らなければいけない、審査されるという感じがしてしまうので、活動報告といったもう少し柔らかな言葉で発信していただくと、皆さんももう少し気楽に肩の力を抜いてやっていただけるかなと思います。その辺の言葉をご検討いただきたいと思います。

(大嶽係長)

表現についても検討させていただきます。

(真田部会長)

確かにプレゼンの目的を明確にするということと、あとはその目的によると思うのですが、内容

をちゃんとこちらから指定して、例えば、活動に何人ぐらい参加しているか、その頻度はどの程度か、など、必要項目のようなものはあらかじめ示しておくのか、あるいは完全に自由でプレゼンしてもらうのかということも検討する必要があるかと思いましたので、今後の部会の中で検討していただければと思います。もう一つは、先ほどの説明では、プレゼンに参加できない団体は事務局が説明するという話だったのですが、もし希望があれば動画をつくってもらうといった方法もあるのかなと思いました。

(三輪委員)

実は応募側の立場で、1次選考で落ちた経験を持っているものですから、こんなことを言われたら嫌だなと思いながら聞いておりました。まず、プレゼンは大変だろうな、準備に苦勞するだろうなと思いましたので、今お話があった目的である交流は大事なのですが、1次選考、2次選考に係る情報共有をする場合は、やはり慎重にさせていただいたほうがよろしいのではないかと思います。

それから、活動に対する賞なので、本来であれば現地に行く方が絶対に良いと思います。まちなみ景観部門は止まっているところを見に行くのでバスで一気に行けますが、地域まちづくり部門では活動が流動的な場合もあり、日程調整するのが難しいのであれば、例えば活動調査を委員が1人か2人ぐらい同行するようなやり方がしっくりくるのではないかと思います。我々になるべく全員で見るとはしますが、例えば、行けなかった場合は後で見えてもらうといった対応とし、一緒に見なければいけないということは多分ないと思いますので、そうすると、例えば多少の交通費等をちゃんと支給して、委員の皆様方が2人ぐらいで一緒に見に行けるように調整していただくなど、その方が審査期間も長いために、良いのではないのかと思いました。内容をひっくり返しているのかもしれませんが、バस्तゥアーはそぐわないなということは承知しましたけれども、一方で、全員一斉に行かなくても、相手側のご都合とかを考えると、そういうやり方をご検討されてもいいのではないかと思います。提案です。

(真田部会長)

では、事務局の方からお願いします。

(村瀬課長)

いろいろな提案ありがとうございます。また今日のご意見も踏まえ、部会ではスケジュールを組み立てながらできることはやっていきたいと思います。本当に現地は我々も行けるものなら行きたいと前向きには思っているのですが、そこは実務のところいろいろ精査していきたいと思います。

(真田部会長)

この件についてはよろしいでしょうか。では、後半部分について、事務局から説明をお願いいたします。

資料4から5まで、事務局から説明を行った。

(真田部会長)

説明ありがとうございます。それでは審議に入らせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

(室田部会長)

まちなみ景観部門のほうですが、書き方が割と抽象的な感じです。これで間違いは出ないという認識でよろしいですか。例えば似たようなものが他にあって、前は案内図とか正式名称というので、多分、間違えないだろうと思ったのですが、そういう情報が全部なくなってしまうと間違いは起きないということではよろしいですか。そこだけ少し気になりました。

(新井係長)

場所の特定ができないということでしょうか。

(室田部会長)

ええ。住所とかも特にないですよね。

(新井係長)

前のときもそうなのですが、少し抽象的な表現だったりして分かりづらいときには、応募いただいた方にお問合せをする場合も確かにございました。割と皆様、具体的にここがいいといったことを書いてくださる場合が多いので、そこは頂いたものでできるだけ探っております。

(室田部会長)

あと、すごく細かいことで、ポスターの丸の中の写真なのですが、リーフレットの写真は多くのメンバーで協力しながら活動している感じが出ているのですが、特に右上の男の子の写真ですね。何か

一人ぼつんとしている写真で、もうちょっとみんなでやっているような活動が選べないのかなと思いました。それはいかがですか。

(大嶽係長)

検討します。

(室田部会長)

よろしくお願いします。

(高村委員)

私も非常に細かいことですが、ポスターの最後の問合せ先のところは、地域まちづくり部門、まちなみ景観部門ともに1行目の「募集します」で一旦切って、「活」は段落を下にした方が良いのではないか、また、その下のまちなみ景観部門も段落を揃えるなら、「景観づくりに」の次は「貢献」から2行目に送ってはどうでしょうか。

また、広報で横浜・人・まち・デザイン賞を知っていただくということで、応募していただくことに力を入れているのですが、選ばれて表彰された後の広報はあまりないのではないのでしょうか。ここは差し障りがあるかもしれませんが、個人的な意見なので外していただいてもいいのですが、こんな賞があって、選ばれるのはこんなに誇らしいことだとか、この賞に選ばれることによって、何かいいことがあるというような、もっと選ばれた人が喜んでいる、私たちも喜んでいるというものを積極的に「広報よこはま」等で取り上げていただけたらと思いました。

(村瀬課長)

横浜・人・まち・デザイン賞というもので活動を表彰して、それを周りに知ってもらうことも大事ですし、この活動をされている方々がより一層、活動していただく励みになってもらいたいということで、広報の仕方というのはこれから考えていきたいと思っています。「広報よこはま」に載せる、場合によっては区の中でもちゃんと周知していただく、また、タウンニュース等からは結構取材に来ていただいていたりますので、あらゆる場面での広報活動に努めていきたいと思っています。

(大嶽係長)

今年度から中央図書館や各区の図書館の巡回展という形で、横浜・人・まち・デザイン賞の直近の受賞団体に加え、これまで受賞された団体の皆様のパネルをつくって、図書館で市民に触れるような取組も始めております。そういった取組に加えて、いろいろな手段を使って検討していこうと思います。

(高村委員)

承知しました。ありがとうございます。

(真田部会長)

では、三輪委員、お願いします。

(三輪委員)

まちなみ景観部門の方では、そもそもまず一つは、横浜・人・まち・デザイン賞という賞があるということと、それを受賞することの意義みたいなことを、応募された方、推薦される方、そういうことにまだ関心のない人たちにどうやって伝え、かつ、継続していくかということが議論のポイントになりました。地域まちづくり部門のほうは応募されたものが誰からの紹介なのかリサーチをされているようですが、まちなみ景観部門の方は結構広く応募が来るので、どういうところから応募や紹介があったかといった詳細な分析がされていなかったという印象です。そのため今回、年代等を入れさせていただきました。私は何となく、同じ人が毎回推薦しているような気がしているのです。強いて言えば、この賞に何回推薦したのかも少し関心があるところで、活動に関しても景観に関しても街のことをよく知っている同じ方が、「今回はあれとか、駄目だったからもう一回」という応募のされ方をされているかもしれませんので、応募の回数や、推薦の回数といった項目があってもいいのかと思ったのが1点です。

もう一つは、まちなみ景観部門では若者に周知していきたいという議論をしていて、それを、募集リーフレットの配布先に反映していただいていると思うのですが、横浜・人・まち・デザイン賞そのものに中高生ぐらいから応募できるようにしてもらわないと、次々応募していこうというモチベーションが上がらないだろうなと思います。自分の活動も本当は応募できるのだと思ってもらいたいと考えており、景観部門の方は、特に学生等がアンテナを高く張っている場合があるので、大学だけでなく工業高校や総合高校とか、デザインの活動をしている美術部等にちゃんとリーチできるように、リーフレットの配布先を加えていただいています。資料5の青少年地域活動拠点は、どちらかというと中間支援というよりは学校の位置づけにいただいた方が良くと思いますが、もう少し若い世代の

方が集うような施設にもリーフレットを置かせてもらえるよう折衝することも大事だと思います。今までは置いていないけれど、若い人にもリーチしたいからという説明の仕方でも、こども青少年局とか教育委員会といった他課も含めてしっかり伝えていただき、もう少し、単に置かせてくださいではなくて、趣旨を伝えて置いていただくような働きかけをすることで、ぜひ置く場所の開拓をしていただきたいと思いました。

あわせて、本来であれば記事もそういった方々向けにも発信しないと、リーフレットだけ置かれてもよく分からないだろうなと思っています。恐らく工業高校等も、グループで発表会だったり、市民ギャラリーのような場を実施されていたりするので、そういったところに少し、それこそパネル展の場所にするとか、あるいはメールマガジン等を教育委員会経由で考えてみるとか、リーフレットの配布だけでなく、どういう活動あるいは景観が今まで表彰されていて、横浜にはこんなものもあるのだなというのを若い人は全然知らないと思うので、そういうことを考えていただくように、記事の掲載先と配布に関しては配慮いただきながら進めていただきたいと思いました。

(真田部会長)

それにつなげて言いますと、もちろん広報するのは応募を増やしてもらうことが直接的な意味ですが、例えば地域まちづくり部門で、こういうものをたくさん配ることによってこういう活動を興すことができるのだとか、もうちょっと長い目で見たときの将来の効果というものもあるのかなと思います。まちなみ景観部門のほうも、直接は高校生が応募してくれないかもしれませんが、そういうのを少し気にするような姿勢が生まれるだけでも横浜市の街並みにとっていい効果があったりするのかなと思います。そこから応募が来なかったからじゃあやめようということではなくて、もう少し長い目で見たときに、賞を知ってもらうこと自体が意義だと思いますので、積極的にいろいろなところに置けるようにしたいかなと思いました。

(新井係長)

いろいろなご意見を頂きましてありがとうございます。確かに応募に関しては、直近の応募数を増やしたいということもありますが、まずはこういう活動、こういうことを目指しているという、横浜の景観について知っていただくというのが大前提にございます。確かに、応募がないからもう次からいいよねということではなくて、地道にこつこつという形にはなるかもしれませんが、長い目で見て周知をしていきたいと思います。そちらについては、引き続きもう少し検討していきたいと思っています。ありがとうございました。

(真田部会長)

その他ございますか。

(田邊委員)

何点かあるのですが、はがきのところで、まちなみ景観部門と地域まちづくり部門のバランスに関するのですが、まちなみ景観部門の方は、写真を添付する場合は電子申請にしてくださいといったことが書いてあるので、地域まちづくり部門の方も一緒に良いのではないかなと思いました。あと、先ほどまちなみ景観部門の方は何となくの場所、住所まで分からなくても良いということだったかと思うので、地域まちづくり部門の方も活動団体の連絡先は分かる範囲でといったように、活動概要のところに分かる範囲でご記入くださいと書いてあるので、メールアドレスまで書かなきゃいけないのかしらとか、歩いていてこの道、すごく手入れされていて素敵というときに、何とかの道と書くぐらいのお気持ちで他薦してもらえるように、緩やかな層も網羅できるぐらいにしておいて、分かる範囲でとかちょっとエクスキューズを入れていただけるとありがたいなと思いました。

あと、2点目は確認なのですが、ロゴの使い方はどうされていますか。例えばグッドデザイン賞だと賞状とトロフィーがあって、お金がかかるのですが、自分たちの商品にロゴをつけてPRするといったことができます。例えば名刺をつくった際や、自分たちの活動のパンフレットをつくった際に、ロゴをつけていいとするのはいかがでしょうか。そうすると、彼らもPRになるかと思います。なので、何に使っていいかを制限するガイドラインは必要だと思いますが、せっかくこの素敵なロゴがあるので、ロゴの使い方も今後考えられるといいかなと思いました。

(村瀬課長)

素晴らしいアイデア、ありがとうございます。事務局でもぜひそれは考えていきたいと思っています。

(大嶽係長)

メールアドレスの欄にはこのように書いてありますが、実際にメールアドレスまで書かないで応募されている方もいらっしゃいます。より柔軟にというか、応募のハードルを下げるという意味でご意見を頂いたと思いますので、表現についてはまだ時間がありますので工夫していきたいと思っています。

(高村委員)

先ほど田邊委員のおっしゃっていたロゴは使えたらいいですね。例えば、お金がかかるのは駄目でしょうけれども、シールをもらって貼れると良いかと思いました。私が今少し思ったのは、広報物の配布先の博物館や美術館といったところは必ずボランティアの方がたくさんいて、すごくいい活動をされているけれども、あまりこの賞では見たことがないので、送るときにぜひ、美術館や博物館、図書館等でボランティアをされている方に、積極的に応募されるようにお声がけくださいという一言を入れていただけるといいかなと思いました。

(新井係長)

確かに、博物館・美術館にはボランティアの方がいらっしゃいますので、そこにただお送りするだけでなく、一言文章を入れる形でお声がけさせていただきたいと思います。

(真田部会長)

加藤委員、お願いします。

(加藤 (功) 委員)

2つあって、1つは、高校生や中学生、大学生が応募するということなのですが、他薦した人に対する何かインセンティブみたいなものがあるといいのかなと思いました。例えばうちの場合も、中高生や大学生がボランティアに来るとき、半分は内申を上げたい、大学進学や就職するときにボランティア証明書が発行されているとそれが有利に働く、といった理由であることもあるので、例えばまちづくり系の大学や会社に就職したいときに、私はこれだけの素敵な場所を横浜で見つけて横浜市から感謝状をもらっていますといったものがあると、高校生、大学生がもっと応募してみようかなと思ってくれるかもしれません。本当に一筆でもいいかもしれないですが市長名で「あなたは本当にいい場所を見つけてくれました」のような、それが例えば先ほどおっしゃっていた、何回か申し込んでいることによって「あなたは5回も見つけてくれました」という証明がもしあると、それだけでもインセンティブとしてはうれしいのかなと思うので、今後そういったものが検討できればうれしいと思います。うちもパンフレットに載せていただいているのですが、誰が他薦したか分からないので、他薦してくれた人と実際に交流できる場を設けて、つなげてあげてもいいのかなと少し思いました。

2つ目はリーフレットのところで、先ほど写真の話題が出てきましたが、特に地域まちづくり部門の方で、私もこれだけをぱっと見て地域まちづくりをしているようになかなか見えないなというのが正直あります。トップの写真もそうですが、申込みはがきの表面の子育て支援から始まる6つの例にしても、どうしてもこのサイズになってしまうと、すばらしい活動をやっているにも関わらず、内容が分からないのもったいないと思います。もし可能であればその活動をもう少し象徴する写真があればいいのかなと思いました。また、できれば後ろ姿ではなくて笑顔で、例えば階段の色を塗っている人とか、出せる限界はあると思いますが、草を刈っているのか、稲をつくっているのか、いまいちよく分からない写真も、例えば何か一言入れたり、入れなくても活動が分かる写真に変えるといいのかなと思います。それと、これは両方に関連するのですが、申込みのはがきの裏面には、これはこういう活動ですということが書いてあるのですが、ポスターの表紙の8つの写真は、どこの何の活動なのか分かりません。恐らくそれぞれの賞で象徴的な、「これを出してあげたい」と思って載せている活動の写真だと思うので、裏面でもいいと思いますが、表紙の写真はこういう活動ですという説明を入れたりすることで、リーフレットやポスターを見た方が、面白そうだから行ってみたいと思い、実際に行くところまでつながっていくと、横浜・人・まち・デザイン賞らしいのかなと思いました。見た人が動いてくれるまで考えられたらよりいいなと思ったので、意見させていただきました。

(新井係長)

先ほどの表紙のご説明で、何かコメントを入れられないかといった内容は、この後、検討させていただきたいと思います。一応これまでの活動につきましては、リーフレット・ポスターともにQRコードは入れさせていただいております。こちらがこれまでの受賞作品のホームページになっていて、ポスターにも同じQRコードを入れさせていただいているのですが、それとは別に、こちらの8つの活動についてはどこかに記載できないか検討したいと思います。

(加藤 (功) 委員)

ありがとうございます。実はさっきそのQRコードをスキャンしてみたのですが、第1回から受賞団体のPDFが並んでいるだけで、詳しい位置や活動が分からなかったのので、これも例えば、マップにこれまで受賞した団体を第何回の受賞か分かるようにプロットして、それをクリックすればGoogleマップにリンクが飛んで「ここから30分で行けるな」ということが分かるようになればいいなと思いました。

	(真田部会長) ありがとうございます。最初の、推薦した人に対するインセンティブという話はなかなか難しいところもあるかもしれませんが、簡単なところで、例えば電子申請した場合に「ありがとうございました」のようなメールが返ってくるようなことにはなっているのでしょうか。 (新井係長) 今は「申請を受け付けました」という画面が表示されるだけで、特にメールが返ってくるシステムにはなっていません。 (真田部会長) メールアドレスは入れなくても応募や推薦ができるからということなのですか。 (新井係長) 電子申請のときに全部の項目が埋まっていないと応募できないということではないので、必ずしも連絡先が入っているとは限らないということになっています。 (真田部会長) 分かりました。 (三輪委員) 横浜市の電子フォームですね。 (新井係長) そうです。横浜市の電子フォームになります。 (三輪委員) Microsoft Formsみたいなものではないので、ログインしないと進まないやつですよ。これが結構面倒くさいのです。横浜市の申請サイトにいちいちログインして、そこから幾つかあるものの中から選択していく必要があります。意見をもらったりする広聴も同じですよ。 (真田部会長) パブコメのようなものですか。 (三輪委員) パブコメもみんな横浜市の電子フォームなので、２段階ぐらい進まないと申請できません。結構、面倒くさいといえば面倒くさいです。 (真田部会長) ハードルが高いですね。 (三輪委員) はがきのほうが楽だと思います。 (真田部会長) そのあたりも、もしかしたら改善の余地があるかもしれないと思いました。今回は難しいとは思いますが、２段階あると、応募しようと思った瞬間に諦めてしまう人も結構多いかもしれないので、検討していただければと思いました。そのときに、もしメールアドレス等を入れるのであれば、「応募ありがとうございました」や「情報ありがとうございました」のようなものが出れば、それをためていって、自分がそういう活動に協力した証拠として使いたい人は使えるかなと思います。 (新井係長) ありがとうございます。電子申請も少しハードルが高いというご意見を頂きましたので、申請の受付については引き続きどういった方法があるか考えていきたいと思っています。 (片岡委員) ちょっと細かいのですが、リーフレットのはがきで「今回の募集をどこで知りましたか」と書いてある質問項目について、市役所、区役所など公的機関がすごく充実している一方、資料５の広報の方法に記載されている、例えばSNSやテレビといった項目は記載されておらず、それがどのぐらい効果があつたのか検証できるような項目になっていないので、ここをちゃんとリンクさせたほうが、どういった広報効果があつて応募に結びついたかというのが分析できるのではないかと思います。スペースが少ないのですごく厳しいですが、項目を検証したほうがより分析しやすいようになるのではないかと思います。 (真田部会長) 確かにSNSで積極的に広報をしていくけれど、それが選択肢にないという問題はありますので、対応してもらえるといいかなと思いました。 (片岡委員)
--	---

あと、どのぐらい効果があるか分からないですが、SNSで広告物みたいなものを行っている行政さんもいるので、今後、そういうものも、その広告の効果があるかどうかも含めて実験してみるとかあるのではないかと思います。

(新井係長)

ありがとうございます。スペースに制約はありますが、どこかでまとめるなどして調整したいと思います。

(真田部会長)

その他にございますか。よろしいですか。それでは、応募数を増やすためとか、いろいろな周知するためということに対して様々なご意見を頂きましたので、事務局からまとめをお願いいたします。

(立石課長)

選考方法やポスター・リーフレット等についてご意見を頂きました。最初の選考方法につきましては、各団体相互の情報交換であるとか、委員の情報収集に関する機会、懇親会を設けていくということで、それについてはよい機会が考えられているというご意見、そして、選考の過程につきまして、現地視察は非常に良い選考方法ではあるので、何とか工夫できないかというご意見で、バスで行けなかったら交通費を出す工夫などがあつたらよいということも含めてご意見を頂いております。横浜・人・まち・デザイン賞自体の選考過程がオープンになる工夫ができないかということ、横浜・人・まち・デザイン賞の地域まちづくり部門の方ですが、1次選考を通過するようなノミネート団体は一定の評価に値するところがあるので、そういった方々の評価をどうするのかというところ、1次選考のプレゼンも、非常に準備されてくる団体さんがいらっしゃる中で、プレゼンの内容をどうするのか、参加できない団体さんには動画等でアピールする機会を与えるかどうか、そういったことも含めて選考過程でのご意見を頂きました。

それから、資料4・5のリーフレット・ポスターについては、今回、まちなみ景観部門では場所等の記述が緩やかになっていますが、それで場所の特定はできますかという話で、これについてはこれまでも問合せ等しているというお答えをさせていただきました。ポスター自体の構成についてもご意見を頂きました。それから、応募自体を増やしていく工夫ということで、前回の部会でも意見が出た部分ではありますが、周知する工夫ということで、我々のほうでもあらゆる機会とネットワークを通じてポスター・リーフレット等の配布をしていこうという中で、さらに一歩進んだご意見を幾つか頂いております。それから、大切なところで、リーフレット等で使っているロゴを有効に活用して、受賞した団体さんがこのロゴを使うことを認めたかどうかといった、新たなアイデア等も頂きました。

合同部会ということで、それぞれの部会で前回頂いたようなご意見も含めてたくさん頂きまして、我々もこれから次のステップに進んでいく中で、今日頂いた意見をしっかり検証し、反映できるところはしっかり反映しながら進めていく必要があるなと感じたところでございます。取りまとめは以上になります。

(真田部会長)

ありがとうございます。

(3) その他

(真田部会長)

では、議事(3)に入りますが、その他、事務局から何かございますか。

(新井係長)

事務局からお知らせです。先ほど議事の中でも少しお話しさせていただきましたが、パネル巡回展示を行っています。昨年は横浜市中央図書館でパネル展示をさせていただいたのですが、その後、一部の区の図書館でのパネル展示も行っております。現在、神奈川図書館で、1月30日までの日程でパネル展示をしておりまして、その後、2月に戸塚図書館、3月に金沢図書館で予定しております。来年度につきましても、中央図書館をはじめ各区の図書館で開催できないかということで調整を今始めている段階になりますので、開催の際にはまたご案内させていただきたいと思います。各区の図書館につきましては、スペースの関係でどうしても中央図書館のように大々的にはできなくて小さいパネル展示になってしまう場合が多いのですが、お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りいただければ幸いです。

(真田部会長)

それでは、これで予定された議事は全て終了しました。本日の内容について事務局に確認をお願いいたします。

	(立石課長) 本日、たくさんのご意見を頂きました。先ほども申し上げましたように、頂いた意見をいろいろ検証して、しっかりと次のステップにつなげていくというところを事務局としてやっていきます。 本日の議事録につきましては、両部会長の確認を得た上で公開させていただきます。冒頭のとおり、都市美対策審議会の表彰広報部会が不成立となっている状況ですが、委員に本日の内容を説明しまして、頂いたご意見の内容も含めた議事として入れ込み、両部会長に確認いただくということで進めてまいります。 4 閉 会 (立石課長) では、これをもちまして、令和6年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会を終了いたします。ありがとうございました。
資 料	・次第、名簿 ・資料1：各部会で出された主な意見とその対応について ・資料2：第12回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール（案） ・資料3：選考方法等について ・資料4：募集リーフレット案・ポスター案 ・資料5：広報の方法について（案）
特記事項	

横浜市都市美対策審議会表彰広報部会会議録	
議 題	審議事項 議事 1 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会開催について 議事 2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について 議事 3 その他
日 時	令和 7 年 2 月 12 日（水）午後 1 時 00 分から午後 2 時 00 分まで
開催場所	市庁舎 29 階 応接相談ブース 29-N2
出席者 （敬称略）	表彰広報部会委員：青木祐介 【議事 1・2・3】 説明者：新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）
欠席者 （敬称略）	—
開催形態	—
決定事項	—
議 事	1 議 事 議事 1 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会開催について 議事 1 について、担当課から説明を行った。 （青木委員） 議事 1 について、承知しました。また、各委員への意見聴取後の最終的な取りまとめは、真田部会長に一任します。 議事 2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について 議事 2 について、担当課から資料等の説明および 1 月 29 日に開催した会議の報告を行った。 （青木委員） 議事 2 について、承知しました。リーフレット等は、他の委員から出たご意見を踏まえて修正していただき、私からは特に意見はありません。 議事 3 その他 議事 3 について、担当課から説明を行った。 （青木委員） 承知しました。
資 料	・次第、名簿 ・資料 1：各部会で出された主な意見とその対応について ・資料 2：第12回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール（案） ・資料 3：選考方法等について ・資料 4：募集リーフレット案・ポスター案 ・資料 5：広報の方法について（案）
特記事項	委員からの意見 【議事 1】「横浜市都市美対策審議会表彰広報部会設置要綱第 2 条第 2 項にもとづき、各委員に個別に意見を聞くことで、表彰広報部会の会議に代える。」ことについて、承知した。 【議事 2】「賞の選考及び広報の方法、リーフレット・ポスターデザインについて、概ね了承されたが、本日出た意見を踏まえて修正を行う。」ことについて、了承する。部会としての取りまとめは部会長に一任する。

横浜市都市美対策審議会表彰広報部会会議録	
議 題	審議事項 議事 1 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会開催について 議事 2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について
日 時	令和 7 年 3 月 18 日（水）午前11時55分から午前12時00分まで
開催場所	リモート開催
出席者 （敬称略）	表彰広報部会委員：真田純子 【議事 1・2】 説明者：新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）
欠席者 （敬称略）	—
開催形態	—
決定事項	【議事 1】横浜市都市美対策審議会表彰広報部会設置要綱第 2 条第 2 項にもとづき、各委員に個別に意見を聞くことで、表彰広報部会の会議に代えることとする。 【議事 2】賞の選考及び広報の方法、リーフレット・ポスターデザインについて、概ね了承されたが、本日出た意見を踏まえて修正を行う。
議 事	1 議 事 議事 1 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会開催について 議事 2 第12回横浜・人・まち・デザイン賞について 議事 1 および議事 2 について、各委員への意見聴取の状況を担当課から説明を行った。 （真田委員） 議事 1 については、各委員の意見聴取が完了したので、これをもって部会の会議に代えることとします。また、議事 2 については、各委員の意見聴取から「賞の選考及び広報の方法、リーフレット・ポスターデザインについて、概ね了承されたが、本日出た意見を踏まえて修正を行う。」旨を決定事項とします。 （新井係長） 承知いたしました。ありがとうございました。
資 料	—
特記事項	—